

# ガラス器具の扱い方

## 事故を起こさないために

### 1 実験の前後にガラス器具の点検をする。

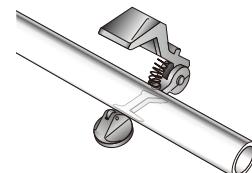
- ・ひびが入っていないか。
  - ・口や縁が欠けていないか。
  - ・割れていないか。
  - ・不良品ではないか。
- ⇒これらに該当するガラス器具があったら、  
すぐに廃棄する。

#### 関連単元

- みんなで使う理科室
- 7.ものの温度と体積
- 8.もののあたたまり方
- 9.水のすがた
- 10.水のゆくえ
- 1.植物の発芽と成長（5年）
- 2.メダカのたんじょう（5年）
- 6.もののとけ方（5年）
- 1.ものが燃えるとき（6年）
- 2.植物のつくりとはたらき（6年）
- 3.ヒトや動物の体のつくりとはたらき（6年）
- 5.水よう液の性質（6年）
- 7.大地のつくりと変化（6年）

### 2 ガラス管の工作

• ガラス管を切断するときは、ガラス管切を使用するとよい。ガラス管をガラス管切ではさみ、回して表面に傷をつける。切断したい部分を机の端に置いて、片方の手で机の上のガラス管を押さえ、もう片方の手で折り取る側のガラス管に力を加えるときれいに切断できる。



ガラス管切

⇒傷は1回引くだけでつける。何回も引くのはよくない。

⇒傷のつけ方が浅いと、きれいに切断できず、ガラス管が割れてガラスの破片が飛び散って危険である。特に細いガラス管は破片が飛び散りやすいので気をつける。

⇒切り口をそのままにしておくと切り傷を負いやさないので、ガスバーナーの炎で加熱して切り口の縁を溶かして丸めておく。（このとき、冷めないうちに加熱した切り口付近を触ると、ひどくやけどする恐れがあるので気をつける。）

• ガラス管をゴム栓やコルク栓にあけた孔に差し込むときは、ガラス管の先と孔の部分に水をつけ、ガラス管を短く持って回しながら少しづつ差し込むようにする。

• このようなガラスの工作は、教師が前もってやっておき、児童にはさせない。

### 3 ガラス器具の洗浄・乾燥

実験で使ったガラス器具は、実験終了後すぐに洗浄、乾燥し、いつでも使えるようにしておくことが大切である。

• 水できれいに洗うことが基本である。まず器具の外側を洗い、次いで内側を洗う。

• 汚れが落ちないときは、洗剤、クレンザー等を使用する。

• 洗う器具に応じて、スポンジ、大小のブラシを使いわける。

⇒ブラシで洗うときは、器具の底を突き抜かないように、ブラシの先から柄を持つ手の指までの距離を器具の長さに合わせる。また、突き抜けた場合も、けがをしないように器具を持つ手の位置に気をつける。

• 洗った後は、水切り台、かご等を使って水を切る。大きなガラスの破片は、手で拾うかほうきで掃いて集める。

### 4 ガラス器具が割れたとき

• 大きなガラスの破片は、手で拾うかほうきで掃いて集める。

⇒素手だと破片で手を切る恐れもあるので、作業用手袋をさせる。

• 小さなガラスの破片は、粘着テープに付着させて集めるか、掃除機で吸い取る。

• 床に落として割れたときは、破片が思いがけない遠くまで飛び散っていることがあるので、破片の掃除を広い範囲で行う。

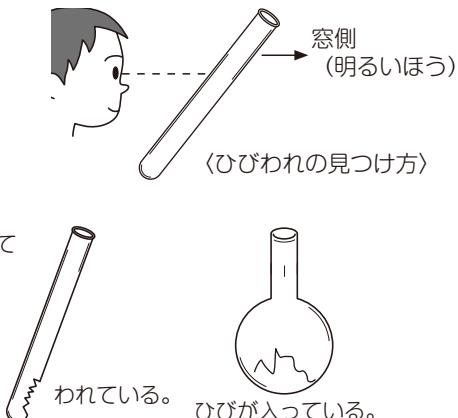
# ガラス器具のあつかい方

実験で使ったら、すぐにあらい、かわかして、いつも使えるようにしておくことが大切である。

## ● けがをしないために

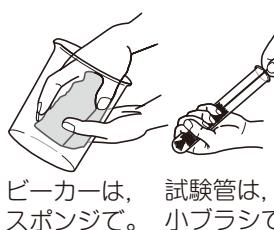
### 1 ガラス器具の点けんをする（実験の前と後で）

- ・われていないか。
- ・□やふちが欠けていないか。
- ・ひびが入っていないか。



### 2 ガラス器具のあらい方

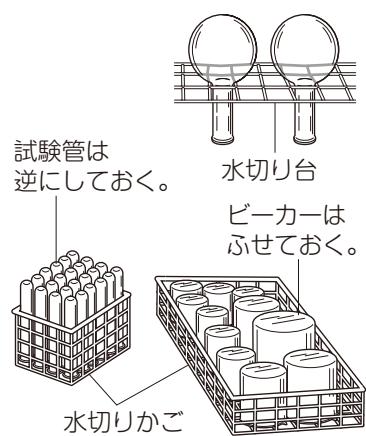
- ・水でよくあらう。あらう順は、外がわをあらってから、内がわをあらう。
- ・よごれが落ちないときは、<sup>せんさい</sup>洗剤を使い、後でよく水あらいをする。
- ・あらった後は、水を切ってかわかし、かわいたら元の所にもどす。



ビーカーは、試験管は、  
スポンジで。 小ブラシで。



使うブラシは？  
口の広い  
フラスコは、  
大ブラシで。



### 3 ガラス器具をあらうときの注意

- ・試験管……底をつきぬかないように、ブラシを底までさし入れて、□もとのところでえをつかむ。
- ・ビーカー（大形）……流しに運ぶときは、両手でしっかり持つ。
- ・フラスコ……しうげきに弱いのでまわりのものに当てないように気をつける。

### 4 ガラス器具がわれたとき

- ・大きなガラスのかけらは、作業用手ぶくろをして手でひろうか、ほうきではく。
- ・小さなガラスのかけらは、ねんちゃくテープやそうじきを使って取る。

